

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                    |            |  |
|---------|--------------------|------------|--|
| 事業所番号   | 1293200158         |            |  |
| 法人名     | スターツケアサービス株式会社     |            |  |
| 事業所名    | グループホームきらら浦安海楽(1階) |            |  |
| 所在地     | 千葉県浦安市海楽2-6-12     |            |  |
| 自己評価作成日 | 令和3年8月31日          | 評価結果市町村受理日 |  |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaignokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaignokensaku.jp/12/index.php</a> |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                              |
|-------|------------------------------|
| 評価機関名 | 株式会社アミュレット                   |
| 所在地   | 東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階 |
| 訪問調査日 | 令和3年9月10日                    |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

筋力維持のためにテレビ体操や風船パレー行い、雨天で散歩に行けないときは階段昇降など行っております。工作を好まれるご利用者様も多いので職員と一緒に季節の飾りを作って指先の運動をしております。完成した作品はリビングの壁に掲示し、視覚的にも楽しんでいただいています。また、歌うことが好きな方も多いので午後を中心に歌謡曲や童謡を歌って声を出し、コミュニケーションを図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「今こそ心ひとつに～最高の笑顔を届けよう～」を今期のスローガンに掲げ、職員が一丸となり取り組んでいます。昨年度来のコロナ禍の影響で外出行事や家族参加の行事は難しいですが、日々、ホーム内で楽しめる取り組みを各ユニットで考え、装飾を工夫して季節感を感じて頂いたり、天候の良い日にはホーム周辺の散歩にお連れしたり、ホーム敷地内での野菜栽培を通して収穫を楽しむなど様々に工夫を図っています。また、職員の育成に向けても力を入れ、身体拘束・虐待防止に向けた研修後に、独自に作成した理解度テストを実施し、全職員が適切なケアを提供できるスキルが身につくように努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   | 項目   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | ○ 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○ 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)             | ○ 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○ 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)     | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66 職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○ 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)         | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○ 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |  |   |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|--------------------|-----|--|--|--|-------------------|
|                    |     |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |  |  |  |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                           | 事務所内にホームのスローガンを掲示しており、いつでも職員が確認できるようになっている。利用者様本位の日課を中心に作成しています。全体で共有できているが、人に周知し出来ていないと感じる。   | 「今こそ心ひとつに～最高の笑顔を届けよう～」を今期のスローガンに掲げ、事業計画書に明示し、事務所への掲示等により全員で確認できる状態にしています。またスローガン策定にあたっては、職員の意見を確認したうえでリーダーを中心に決定しています。 |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                           | 去年に比べ、移動販売の八百屋と、ヤクルトの訪問販売は毎回購入しています。利用者様と外へ出る機会が増えたように感じます。  | 今年度もコロナ禍の影響で地域行事等が中止となり、行事への参加を通して交流できる機会はありませんでしたが、八百屋の移動販売、乳性飲料の訪問販売を継続的に利用し交流が図れるように努めています。                         |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                         | 新型コロナウイルスにより、運営推進会議は中止になっている。認知症カフェも実施できておらず活かしてきれていない。  |  |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている      | 新型コロナウイルスにより、運営推進会議は中止になっている。議事録を通して現状報告を行っている。  | コロナ禍の影響もあり、運営推進会議については書面開催という形式をとっています。運営状況のほか研修やイベントなどの取り組みを書面に残し、行政担当者、社会福祉協議会、家族へ送付しています。具体的な意見等は今のところ表出されていません。    |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる                | 運営推進会議議事録を提出して事故報告や研修報告を行っている。   | 運営上相談事が生じた際には行政の担当課へ連絡を入れて指示を仰いでいます。新型コロナウイルス関連においてもマスクやプラスチック手袋を無償配布頂くなど、衛生用品提供に際して協力を得ることができています。                    |                   |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 入社時および事業所内での研修において「権利擁護・高齢者虐待防止」について学ぶ機会を設けている。研修に参加できないスタッフには資料を配布し、全職員が、身体拘束について正しく理解し、身体拘束をしないケアにつなげている。又、今年度から3か月に一度施設での研修を行っているため、意識してケアを行っている。2か月に1度リーダー、ケアマネ、管理で廃止会議を実施している。身体拘束廃止委員会や研修で身体拘束について正しく理解し、身体拘束をしないケアにつなげている。研修に参加できない職員は資料を配って全職員が正しく理解できるようにしている。クオリティマスター制度では研修や小テストを行い定期的に振り返りもしている。 | 身体拘束をしないケアの実践に向けて2ヶ月毎、身体拘束廃止委員会を全体会議の中で実施し職員全体で不適切ケアの発生が無いか確認しています。さらにホーム内での身体拘束廃止研修のほか理解度テストも実施しています。                 |                   |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている       | 開設時および事業所内の勉強会において、「高齢者虐待防止と身体拘束ゼロへの取り組み」の身体拘束廃止マニュアルを参照しながら、虐待について正しく理解するとともに、日々のケアにおいて虐待が見過されることのないよう注意を払っている。又、職員間でもお互いを注意し、虐待防止に動いている。クオリティマスター制度では研修や小テストを行い、定期的に虐待について振り返っている。   |  |                   |

グループホームきらら浦安海楽(1階)

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
|    |     |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 事業所内研修において「権利擁護」について学ぶ機会を設け、理解を深めている。成年後見制度については学ぶ機会は設けていない。又、今年度より、クオリティマスター制度の発足により、年間の定例研修に組み込まれており、研修の実施をしている。   |  |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                        | 契約の際は管理者が主となり、十分な説明を行い、理解・納得を図るよう努めている。  |  |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 家族会、運営推進会議を開催し、ご家族の意見をいただく機会を設けている。また面会時等、日頃のコミュニケーションを密に図ることで、意見・要望を運営に反映させている。   | 家族からの意見や要望等についてはコロナ禍のためホームに来所される機会も少ないこともあり現状は電話連絡を通して確認しています。また、利用者からの要望等は日常会話から収集し、日々の生活の中で反映できるように努めています。 |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 毎月のユニット会議、ホーム全体会議の場で、スタッフの意見等を聞く機会を設けている。また、日頃の勤務時間においてコミュニケーションを図ることで、職員と活発に意見交換ができるよう連携している。事務所内も入りやすいように整理してある  | ホーム長が中心となり定期的個人面談や日常的に気になることなどがある際にはホーム長から声を掛け不安や悩み等の早期解決に努めています。また全体会議やユニット会議時においても職員からの意見や提案を大切にしています。     |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 管理者、ユニットリーダーが主となり、各スタッフとのコミュニケーションを積極的に取ることで、その方々の考え方、モチベーションの持ち方を知るように努め、向上心を持って働けるよう環境整備している。親睦会を開催し、仕事の息抜きなども行っている。半年に1度ホームでも食事会や、会社内の親睦会へ積極的に参加をしてもらっている。今年度は自粛している。 |  |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 外部研修の知らせや、資格取得の際の割引などの情報は共有し、自ら学ぼうという気持ちを高めている。又、会社からの推薦で、外部の研修に参加することもある。社内研修では、入社年数、職責ごとの研修も実施している。  |  |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 運営推進会議や認知症カフェ、また行事活動などで他事業所の職員と交流する機会があり、双方の活動内容を知る機会となっている。今年度は自粛をさせて頂いている。   |  |                   |

グループホームきらら浦安海楽(1階)

| 自己                           | 外部  | 項目   | 外部評価  |   |
|------------------------------|-----|--|---|---|
|                              |     |  | 自己評価<br>実践状況  | 実践状況<br>次のステップに向けて期待したい内容   |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |   |   |
| 15                           |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居時にはご家族の協力を得てセンター方式の一部を利用してアセスメントを取り、本人の情報把握に努めている。安心する言葉掛けや環境整備に努めながら本人との関係作りを行っている。又、積極的にご本人様の趣味趣向なども聞き入れ、一日でも早く生活に慣れてもらえるように努めている。一日でも早く、きららでの生活に慣れて頂きたく、ご家族様と連絡を密に行っている。 |   |
| 16                           |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 入居時にはご家族との密なコミュニケーションにより、家族からの情報に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。またケアプラン作成に反映させている。又、居室の環境整備や住みやすい環境の提供に努めています。不安気持ちにならないように、小さなことでも、報告連絡を実施している。   |   |
| 17                           |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 情報の把握、情報収集(24時間シートや排泄記録、家族との意見交換)を徹底に行っている。そこからまず必要としている支援を見極め、必要であれば他サービスの提案もしている。またユニット会議でもほかの利用者様への影響なども議題として挙げることもある。   |   |
| 18                           |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 利用者主体、自立支援のケアができるよう、個々のサービス計画を立て、それに基づいたケアを行っている。定期的な席の配置を変えて、利用者様同士の交流も図っている。  |   |
| 19                           |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 家族会や行事等に参加を呼びかけ、実施することで家族と利用者が良い関係性を継続できるような取り組みを行っている。また日々のコミュニケーションを密にすることで、信頼のある関係を築けるよう努めている。新型コロナウイルスの感染状況によって制限している場合もある。   |   |
| 20                           | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 本人の馴染みの人の来訪をお受けし、事業所内にて交流を図っている。近所の散歩や行事等の外出支援を通して今までの馴染みの人や場所との関係性が途切れることのないよう努めている。新型コロナウイルスの感染状況によって面会を制限している場合もある。  | コロナ禍の影響もあり、利用者が面会などを通して知人などと交流することは難しいですが、家族や知人の方との手紙のやり取りや電話の取次ぎなどを通して交流が図れるように努めています。 |
| 21                           |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 職員が利用者の中に介入しながら、利用者同士が関わりあえるような支援に努めている。共有した空間感じてもらえるように口腔体操(毎食前)やラジオ体操を毎日行っている。15時のおやつ後にレク、軽運動を実施。   |   |

グループホームきらら浦安海楽(1階)

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | サービス利用終了後は、これまでの関係性を維持していくような取り組みは行っていない。  |  |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |  |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 毎日の介護記録の徹底や職員同士の情報共有により、一人ひとりの想いを把握するよう努めている。会議の場でも、その方の思いに焦点を当て、どう支援していくべきか話し合っている。   | 利用者の思いや意向については日常会話を中心に把握するほか、ケアプランの作成および更新時のアセスメントを通して思いや意向、利用者の日常生活動作状況等について定期的に確認する仕組みを築いています。         |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 入居時のアセスメントにおいて、本人や家族から情報を得ながら、これまでの経緯の把握に努めている。職員間でもそうした情報の共有をし合っている。自宅での生活に近い生活を提供する努力をしています。   |  |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 毎日の介護記録やD-3シート、週間経過記録を参考にしながら分析、個人の現状把握に努めている。変化がある時も、些細なことから共有し、把握に努めている。細かな事でも、ご家族様に相談することもある。また訪問診療時に困っていることなどの確認を行っている。又、ケアカルの導入により、情報の共有がしやすくなった。 |  |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 月に一度のミーティングにおいてモニタリングを実施。各職員の意見やアイデアを反映し、それを現状の介護記録に現状に即した計画を作成している。ケアプラン作成時はご家族への説明と同意を得ている。  | アセスメントで抽出した課題を踏まえて担当者会議を開催し、職員や家族の意見を総合的に踏まえてケアプランを作成し利用者本人及び家族の同意を受領しています。毎月モニタリングを行い、目標の達成度合いを確認しています。 |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 日々の様子を介護記録に記入することで、個別の情報を共有することにつなげ、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。毎日の変化・気づきなども記録・日誌に記載し共有、見直しに生かしている。  |  |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 本人や家族の状況の変化を職員間で共有しながら、柔軟に対応はしていく。重度化したご利用者に対しても、出来る限りの支援を検討し、実施してきた例はある。ご利用者様の様子を日々の記録に細かく記入している。また管理者との密に連絡を取り、ご家族様へ連絡をしている。                         |  |                   |

グループホームきらら浦安海楽(1階)

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |  |
|----|------|---|--|---|--|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 地域に住んでいる職員や家族、また行政等から、地域資源の情報を集め、行事参加等を通して、地域での暮らしを楽しんでもらえる取り組みを行っている。現在新型コロナウイルスの影響により参加はしていない。                         |   |  |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 入居時に本人及び家族の要望を把握し、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう受診支援している。場合によりスタッフも付き添い、協力できるよう努めている。オンコールで24時間の対応をしてくれている            | 提携先の医院とは定期的な往診を通しての連携体制のほか、24時間連絡が取れる体制があり緊急時にも迅速な対応を可能としています。週に一度提携先医療機関の看護師も来訪され、主治医とも連携が図られていることで利用者への対応もスムーズに行われています。 |  |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 訪問看護とは、健康管理連携記録を通して、毎週欠かさず情報共有している。訪問した際も口頭で連絡相談をしている。緊急性が生じたときは訪問日以外でも電話で症状を報告し、指示を仰いでいる。                               |   |  |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者が入院した際には、入院先の病院関係者とは情報を共有している。入院中はできる限りお見舞いにも行き、ご本人の状況把握に努めている。   |   |  |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | ご利用者が重度化してきている段階では、ご家族と終末期についての過ごし方、方針を話し合っている。また訪問医や家族とも話し合いを行うことで、事業所でできる支援について方針を決め、共有を図っている。終末期について説明同意書に捺印をいただいている。 | 重度化や終末期に向けた方針については利用契約時に各指針に基づき詳細を説明し、説明後同意を受領しています。終末期を迎えた際には、主治医から直接、今後の支援方針を家族の方に伝えて頂き、終末期の方針についてホーム所定の同意書に同意を受領しています。 |  |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 利用者の急変や事故発生時における対応についてのマニュアルを事業所内に掲示し、その対応について周知徹底をしている。また、開設時および事業所内の勉強会において、AEDの取り扱い方法などの知識を身に付けている。施設内研修にて動作説明をしている。  |   |  |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 年3回の防災訓練において、昼夜問わず利用者が避難できる方法を各職員が身に付けている。その内1回は消防署の協力のもと、避難訓練を行っている。その年にあった、災害なども例に実施している。(前期はコロナにより立ち合いなし)             | 令和3年5月に水害想定、同9月に消火や通報を含めた総合訓練の実施を予定しています。全体で年間3回の訓練を計画しています。災害時用の備蓄品についてもホーム内の所定の場所に保管し、消費期限も定期的に確認しています。                 | 今後、事業継続計画(BCP)の必須化に向け、作成のための情報を収集し、ホーム独自の事業継続計画の作成に向け取り組まれることを期待します。 |

グループホームきらら浦安海楽(1階)

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
|                                  |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |   |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 介護記録などに本人の言動だけでなく、職員の言動なども具体的に落とし込むことにより、人格を尊重したケアを継続できるよう努めている。ケアカルテの導入により、記録の幅が広がった。  | 利用者に対して適切な対応が図れているかについては、毎月の全体会議やユニット会議で適宜確認しています。また日々の記録に関しても職員の言動なども具体的に記録することで、ケアの振り返りなどにもつなげています。           |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 本人に介入する際は、まず本人の同意を得てから介入するような言葉かけを行っている。選択をする場面では、自ら選んで頂けるよう声掛けしている。又、介護の基礎でもある、『説明と同意』もしっかり、行っている。   |   |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1人ひとりの生活パターンを把握し、出来る限り入浴や就寝、散歩などにおいて個々の希望に沿った時間帯で行っている。無理にスケジュールに沿った動きを強要しない。   |   |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | ご本人が自分で着る服を選べるような言葉掛けを行い、その人らしいおしゃれができるよう支援している。生活の一部として、洋服選びも重視している。   |   |                   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | キッチンに立ったり配膳を行うことで準備の段階から食事を楽んでもらえるような支援をしている。それぞれの方ができることを行えるよう声掛けしている。タイハイとクックデリを導入され調理時間が短縮された。日によって手作りの日と併用している。                                 | 食材は業者への発注のほか、近隣スーパーを利用して調達しています。食事メニューは献立担当職員が中心となり利用者の希望も取り入れて作成しています。盛り付けや食事の味見など利用者の関りも大切にして職員と一緒に準備等を進めています |                   |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 利用者それぞれに対して声掛けの工夫や食事のタイミングなどを工夫しながら、栄養が不足しないよう、支援している。食事量、水分量はその都度記録し、少ない場合には気を付けられるように共有している。一日の平均を1000mlを超えるように努力している。主治医との連絡を密に行い、健康状態の報告も行っている。 |   |                   |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 毎食後、個々の能力に応じた口腔ケアを実施している。義歯装着者は、夜間に洗浄剤に漬けている。また、希望者には訪問歯科を受診いただき、口腔内の清潔維持に努めている。又、口腔ケアの研修を毎月行っているため、意識的に口腔ケアの質向上を図っている。                             |   |                   |

グループホームきらら浦安海楽(1階)

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 個々の排泄パターンを理解し、個々に合わせた誘導や介助を行い自立に向けた支援を行っている。薬に頼らないように、朝食時にバナナとヨーグルトを毎日提供して、腸活を心掛けている。   | 利用者一人ひとりの排泄状況については記録システムに入力され、タブレット端末を通じてデータを職員間で共有できる仕組みとしています。排泄はトイレを基本とし、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。                |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 毎朝、バナナとヨーグルトをメニューにいれ、栄養が偏らないよう献立を工夫しながら、牛乳・ココアなどの乳製品を飲んで頂くように声掛けしたり、ご本人に合わせた水分量を提供したりしながら便秘防止に努めている。また訪問医や訪問看護とも相談しながら薬の調整等も行っている。    |   |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                        | 基本の日にちは設定しているが、希望がある場合はできるだけその人のタイミングに合わせて入浴支援を行っている。また、その日の心身状況見たり、入浴の入れていない方を優先して声掛けするなどし、入浴のタイミングを図っている。                           | 入浴については体調を考慮し週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように支援しています。入浴状況については記録システムに入力され、タブレット端末を通じてデータを職員間で共有できる仕組みとしています。     |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 毎日なるべく決まったりリズムで生活ができるよう、安心できるような環境づくりや薬の調整等を行いながら支援している。  |   |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 1人ひとりの薬状をファイリングし、いつでも職員が確認できるよう保管している。また、症状の変化に応じて、提携している薬局や訪問医と相談しながら服薬管理を行っている。薬の内容の変化があった際には、確認するようにしている。又、服薬時に粉状にして、抜薬や薬防止に努めている。 |   |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | アセスメントを取り、今までご本人が親しんできたものをなるべく提供することで、気分転換や他者との交流づくりのきっかけとなるよう支援している。皆さんが集まって歌を歌ったりなどの楽しみとなれるような機会も作っている。                             |   |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一日の中で散歩や買い物の時間を設け、また、洗濯物干しや花の水やり等、出来る限り何らかの形で1回は外に出られるように声掛け、外出支援している。  | コロナ禍のため全体での外出行事はできませんでしたが、気候の良い日にはホーム周辺の散歩に利用者をお連れするほか、定期的に訪れる移動店舗の八百屋までお連れしたり、ホーム玄関先に設置しているベンチでの日光浴などを通して戸外に出られるように努めています。 |                   |



グループホームきらら浦安海楽(1階)

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|--|---|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 基本的に利用者のお金に関しては、事務所内の金庫にて管理を行っている。必要なときは、ご家族様に確認を行い、しっかり管理している。                                 |   |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 本人からの希望があった際には電話や手紙にて外部の方と交流ができるよう、支援している。  |   |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 夜間を中心として、主に共有スペースの清掃・消毒を行い、清潔感ある空間で過ごしていただけるよう支援している。また季節ごとにリビングに飾りつけなども行っている。                  | 利用者が集うリビングルームは装飾品の掲示により季節感を感じられるように工夫しています。掃除も日々徹底しており、感染対策として換気もこまめに行っています。玄関先には手指消毒器と検温センサーを設置し感染症予防対策を徹底しています。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 入居者同士の関係性を常に把握していき、居心地のよい関係性の中で生活できるよう声掛けや席の配置等を工夫している。トラブルがないように、必ずスタッフが介入して、居心地よい、環境づくりをしている。 |   |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 家族と相談しながら、今まで使われていた馴染みのあるものを居室内に配置することで安心した生活が送れるよう配慮している。居室担当者を設け、整理整頓に努めている。                  | 居室内でも居心地良く過ごせるように、これまで使い慣れた愛用品や馴染みの物の持ち込みを可能としています。居室掃除も定期的を実施し、衛生面も保たれています。換気についてもこまめに行っています。                    |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 建物内はバリアフリー化しており、また福祉用具等を利用しながら、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。また、設備等に問題がみられた場合は迅速に対応している。               |   |                   |